

## 1. 基本情報

- (1) 国名：コートジボワール共和国（以下、「コートジボワール」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：大アビジャン圏
- (3) 案件名：大アビジャン圏における道路維持管理機材整備計画
  - (仏) Le Projet d'Amélioration des Équipements d'Entretien Routier dans le Grand Abidjan
  - (英) The Project for the Improvement of Road Maintenance Equipment in Greater Abidjan)
- (4) 計画の要約：

本計画は、大アビジャン圏において道路緊急補修整備を担う道路維持管理公社の作業ユニットに対し道路維持管理機材（ホイールローダ、アスファルト・ミリング・マシン等）を供与することにより、同都市圏の道路状況と交通利便性の改善を図り、もってコートジボワール及び近隣国への交通・物流の円滑化を通じた同国における持続的な経済成長の推進に寄与することを目的とする。

## 2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

サヘル地域で政情の不安定な国が多い中、コートジボワールは、2011年の内戦終結、平和と治安、国民和解と社会の調和に取り組み、着実に民主主義が定着しつつある。また経済復興についても、そのGDPが西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）のCFAフラン圏（西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）加盟8か国）の約4割を占める等、西アフリカ「成長の環」の主要国として地域の安定・発展の上で重要な役割を担っている。本計画の実施は、対コートジボワール外交のみならず対西アフリカ外交の観点から意義があり、我が国は、第8回アフリカ開発会議（TICAD8）において、連結性・質の高いインフラ投資に取り組むことを表明し、本年8月のTICAD閣僚会合に際して行われた日・コートジボワール外相会談においても、両外相がインフラ整備を通じた西アフリカ地域の連結性強化に向けた協力を確認しており、本計画はこうした動きを具体化するものとして重要である。

また、近年、同国へは日本企業が西アフリカ地域拠点として進出を活発化させており、本計画は日本企業の物流円滑化を支援する観点からも意義が高い。

さらに、持続可能な開発目標（SDGs）のゴール9「インフラ、産業化、イノベーション」、11「持続可能な都市」、13「気候変動」の達成にも貢献するものである。

- (2) 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

コートジボワールの大アビジャン圏は、同国最大の商業都市であることに加え、物流拠点であるアビジャン港を擁し、近隣内陸国向けのトランジット貨物のハブ拠点と

しても機能している。そのため、同都市圏においては、急激な人口増加や交通需要増大への対応と共に、西アフリカ域内における物流円滑化の観点からも道路インフラ整備及び維持管理が重要となっている。

コートジボワール政府は、「国家開発計画（PND）（2021年～2025年）」の重点戦略「経済成長と雇用促進に資するセクターの活性化」の達成のためには、「輸送交通インフラ整備と維持管理の推進が必要」として、輸送交通インフラ整備に向けて、JICAが「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト（2013-2015年）」を通じて策定し、コートジボワール政府が承認した「都市交通マスタープラン（SDUGA）」に基づき他ドナーとの協調・協働により複数の事業が実施されている。

SDUGAにおいてその重要性が指摘されている道路維持管理については、道路損傷の激しい大アビジャン圏では、機材・道路維持管理省傘下の道路維持管理公社（AGEROUTE）により日次点検が行われ道路データベースが更新され、その傘下で同都市圏の優先修繕工事に対応する道路維持管理作業ユニット（UMPAT）は、同データベースに基づき、緊急補修計画の策定及び実施を担っている。しかしながら、現行の保有機材では年間の道路補修の優先修繕需要（40万平方メートル）の25%にしか対応できておらず（2023年）、損傷箇所通過車両の低速走行や頻繁な加減速が発生し、交通渋滞や移動時間の増大等が問題となっている。

かかる現状を踏まえ、本計画は、UMPATに道路維持管理機材を整備することにより、大アビジャン圏における迅速かつ確実な道路維持管理及び道路交通の改善並びにGPSシステム等のDX機材を活用した効率的な道路維持管理体制の確立を図り、もって同都市圏及び西アフリカ内陸部への物流改善を通じた経済成長に貢献するもの。

### 3. 計画概要

\* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

#### (1) 計画概要

##### ① 計画内容：

ア) 施設、機材等の内容：ホイールローダ、アスファルト・ミリング・マシーン、モーターグレーダ、小型ホイールロイダー、アスファルト・エマルジョン・プラント等 計43台、スペアパーツ管理GPSシステム（各機材分）等

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、調達監理、ソフトコンポーネント（機材の運営・維持管理等）

② 期待される開発効果：年間当たり窪み及び裂け目の補修面積（平方メートル）が増加（103,870（基準値）→311,610（目標値））し、同国及び近隣国への交通・物流の円滑化に貢献する。

③ 計画実施機関／実施体制：道路維持管理公社（AGEROUTE：l'Agence de Gestion des Routes）

④ 他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて詳細確認する。

⑤ 運営／維持管理体制：同公社内のUMPATが主体となり運営・維持管理を担う。

#### (2) その他特記事項：

- コートジボワールの所得水準は相対的に高いものの、大アビジャン圏が同国及び周辺

国への物流のゲートウェイとしての機能を果たすための道路維持管理能力の強化は、西アフリカ地域の円滑な物流改善に資するものである（「広域性」）。また、これまでの都市交通マスタープランの策定等に積み上げる形の同都市圏における道路維持管理への協力は、我が国が TICAD 8 で発表した「連結性・質の高いインフラ投資」を具体化するもの（「重要政策との関係」）。さらに、同国は、西アフリカ市場を見据えた日本企業の投資先としての潜在性も有しており、日本経済にも寄与する（「外交的観点」）。

- 環境社会配慮カテゴリ分類：C
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

#### 4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

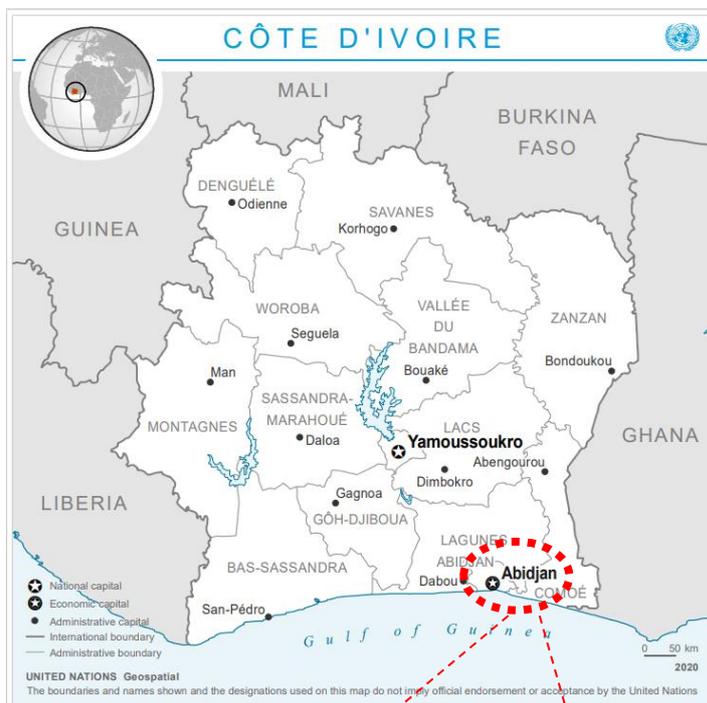
アルメニア共和国「エレバン市道路維持管理機材整備計画」（評価年度 2007 年）ではスペアパーツ発注から到着までに時間を要し、その間機材を使用できなかった。発注から調達の間を見越したスペアパーツの確保が必要であったことから、本事業では同国や近隣諸国の販売代理店においてスペアパーツが入手可能な機材選定を行うとともに、調達期間を見越したスペアパーツ確保に留意する。

以上

[別添資料] 地図「大アビジャン圏における道路維持管理機材整備計画」

[別添資料] 写真「大アビジャン圏における道路損傷状況の一例」

地図 「大アビジャン圏における道路維持管理機材整備計画」



出典 : United Nations  
<https://www.un.org/geospatial/content/c%3%B4te-divoire-2>より

JICA 作成

【大アビジャン圏】



出典 : JICA 「コートジボワール国  
 大アビジャン圏都市整備計画策定  
 プロジェクト ファイナルレポート  
 要約編」  
<https://libopac.jica.go.jp/images/report/12230587.pdf>

写真「大アビジャン圏における道路損傷状況の一例」



出典 : AGEROUTE 「Catographie · Alertes」 ([www.ageroutemarche.net](http://www.ageroutemarche.net))